

# いしかわまち 「地域の支え合い通」

発行：社会福祉法人  
石川町社会福祉協議会  
石川町字松木下88  
TEL 0247-26-3793  
FAX 0247-57-7003

編集：生活支援コーディネーター **NO.1** 発行日：2019.4.1

## 誰もが 住み慣れた地域で 最期までいきいきと 心豊かに暮らせる社会に向けて

みなさんは、10年後、20年後、そして将来に向けて、自分たちの町をどのような地域にしたいですか？

今、全国の市町村で、住民も行政も一緒になった新しい地域づくりが一斉に始まっています。

その一番の柱は、住民が主役となった助け合い活動の推進です。

平成27年の介護保険法改正で、団塊世代が後期高齢者になる2025年に向けて、地域で助け合い、高齢者の日常生活を支える仕組みづくり（生活支援体制整備事業）を充実させることが追加されました。

改正のポイントは3つ・・・①「高齢者の社会参加」、②「介護状態の重症化を防ぐ」、③「助け合える地域づくり」です。

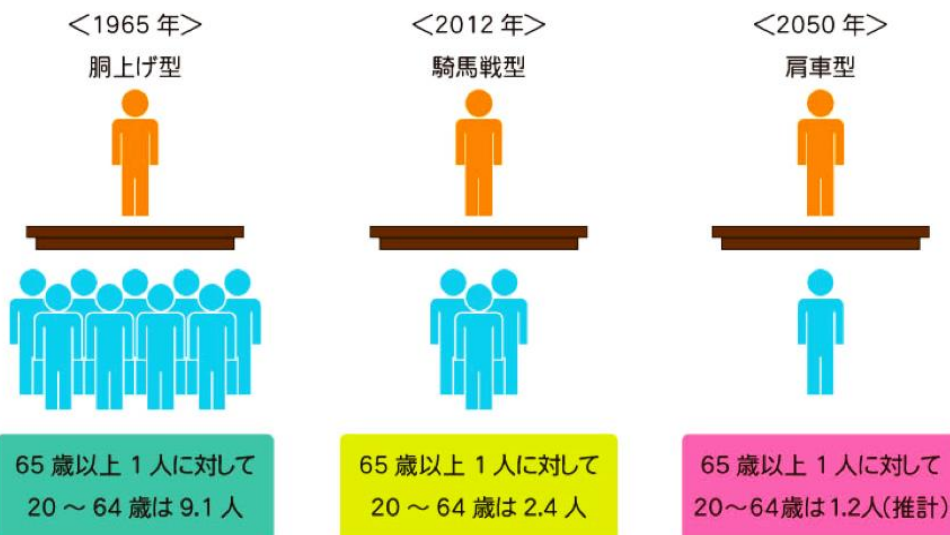
誰もが住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らし続けられるよう、一緒に助け合いの地域づくりを考えていきましょう。

### 生活支援体制 整備事業



## 石川町でも支え手不足が起こる！？

～生涯現役でいつまでも元気で支え手になりましょう～



(厚生労働省発表のデータより算出)

### 背景

### 「助け合い」が求められる背景

.....

「65歳以上が「支えられる側」から「支える側」へ」  
現在の日本は『超高齢化社会』を迎えており、今後、更に高齢化が進むと予想されています。一方で支え手である若い世代の人口は減少しつつあり、将来的には次のような影響があると言われています。

- ・ 支え手が必要とする方が増加↓税金や介護保険料が増える。
- ・ 担い手、支え手が不足↓様々な支援活動やサービスが回らなくなる。...

# 地域包括ケアシステムのイメージ



## 位置

住み慣れた我が家で安心して暮らし続けるために

介護が必要になっても住み慣れた地域で自分らしい人生を送ることができるよう、「住まい・医療・介護・介護予防・生活支援」が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の仕組みづくりが進められています。生活支援体制整備事業は、その中の「介護予防・生活支援」を更に充実させていくものです。

◆地域包括ケアシステムとは・・・

介護が必要な方などを  
地域・・・住み慣れた地域で  
包括・・・いろいろなことをまとめながら  
ケア・・・お世話する  
システム・・・しくみです。

# 各地区に協議体が設置されています

昨年度末までに沢田・山橋・中谷・母畑・野木沢地区で自治協議会が設立され、その中に福祉部会（第2層協議体）が設置されました。

安心して住み続けられる地域に向けて、自分たちの地域に必要なことを話し合っていきます。



母畑地区福祉部会議の様子

## 内容

みんなで作っていく「支え合い・助け合い」のしくみ

地域の支え合いや助け合いを作りだし発展させていくその主体は、もちろん地域のみなさんです。

この取り組みを進めるために、石川町全域（第1層）及び各地区（第2層）では、住民主体の『協議体』を設置し、『生活支援コーディネーター（支え合い推進員）』を配置しています。

◆協議体（福祉部会）とは・・・

地域の社会資源の発掘や課題の発見と、支え合いの協議などを行いつつ、地域の支え合い活動を発展させ進めていく場です。

◆生活支援コーディネーターとは・・・

地域の社会資源の発掘や様々な人・専門職・団体等のつながりを深めるなど、地域の支え合いの調整役を担います。

# 各地区で活動がスタートしました！

自治協議会が設立した4地区（沢田・山橋・中谷・母畑）には、福祉部会の活動を推進するために、生活支援コーディネーターが配置され、支え合い・助け合いの地域づくりが始まりました。それぞれの地区の活動の紹介と、みなさんの地区の生活支援コーディネーターを紹介します。（野木沢地区は4月からスタートします。）

## 沢田

### 傾聴ボランティア活動がスタート

平成29年から健康福祉部会がスタートし、部会は行政区長を中心に、民生児童委員、保健協力員、白鳥の会ボランティアで構成されています。

1年目は「支え合いの仲間づくり」のために外部講師を呼び勉強会を開催しました。

また、山形県天童市内の地で助け合いづくりをしている「のんびり茶の間」を視察しました。

さらに、生活支援コーディネーターが配置となった昨



「傾聴」の勉強会には多くの方が参加されました。

年から、「支え合いのしくみづくり」について考える具体的な話し合いが始まりました。

8月には「傾聴」の勉強会を実施し、部会員とボランティアの方が一緒に、2月中旬から一人暮らしや話し相手が欲しいという高齢者の方への傾聴ボランティア訪問が始まりました。



【沢田地区】  
生活支援  
コーディネーター  
水野 澄恵

沢田地区の高齢者はとても元気な方が多いです。地域のみなさんが当たり前のようにお互いを見守り支え合っているなど感じます。

これからも高齢者の方々が、住み慣れたこの地域で、安心して暮らせるよう皆様の力を頂きながら活動を進めて行きたいと思えます。

## 中谷

### 「今できることは、 寄り添い・話を聞いてあげること」

昨年5月から福祉部会がスタートし、部会は長寿会を中心に、民生児童委員、保健協力員、更生保護女性会、人権擁護委員などから構成されています。

平成29年度に国のサポート事業を受け、長寿会の方々が高齢者宅へ戸別訪問し、日常生活や生活支援等のアンケート調査を実施しました。

福祉部会では、その結果を踏まえて、高齢者の「日常生活での困りごと」の解決（支え合い）に向けて話し合いを



福祉部会主催で行われた「終活」講演会の様子。

進めています。また、部会の活動をPRするため、昨年1月には「終活セミナー」を企画し多くの皆様に参加して頂きました。

現在は、傾聴の勉強会を控え、「地域の人が地域の人を見守っていくお互いさまの活動」を広げていくために検討を重ねています。3月には視察・研修も行いました。



【中谷地区】  
生活支援  
コーディネーター  
吉田 真澄

生活支援コーディネーターになって2年目。役割の事も地域の事もまだまだ学ぶことがあります。今年は各地区に足を運び、地域の実情を知り、福祉部会の皆様と共に、住民一人一人が安心して生き生きと暮らしていくためのしくみづくりを目指して頑張ります。

## 山橋

一人暮らしの高齢者の  
声を聞きたい…

昨年5月から福祉部会がスタートし、部会は民生児童委員を中心に、長寿会、保健協力員、山橋ふれあい広場ボランティア、行政区副区長などで構成されています。

「10年後を考えて、みんなで助け合う」「隣近所の声掛けや今できることをみんなでやろう」と話し合い確認しています。

1月～2月末に調査した一人暮らしの高齢者の方の日常生活の困りごとについて、これから対応の検討が始まります。



【山橋地区】  
生活支援  
コーディネーター  
矢内 啓子

昨年4月から縁があつてセンターで働き、地域のたくさんの方々の出会いと語らいを大切に、少しでも皆さんのお役に立てればと思っています。よろしくお願ひいたします。



## 母畑

ひと声かけて、気にかけて  
くれる人を増やす行動を

昨年5月から福祉部会がスタートし、部会は民生児童委員を中心に、長寿会、保健協力員、更生保護女性会、介護相談員、社会福祉協議会理事・評議員で構成されています。

会議では、昔からの地域のつながりが大事、日頃からの付き合いをベースにし、近所でひと声かけて気にかけてくれる人を増やしていこうと話し合われています。

隣近所の見守りや声掛けの意識を高め、部会と組長さんを中心に、地区の行事など機会があることみんな話題にしていくのが自然なやり方ではないか…と見守りについて話がされています。



【母畑地区】  
生活支援  
コーディネーター  
永沼 直好

見守り活動の自助・互助・公助と自らが地域とつながり、支え合い・助け合い活動を充実させることが大切だと感じています。安心して暮らせる地域づくりを目指します。よろしくお願ひいたします。

「最期まで、自分らしく・自立した生活を送るために、高齢者の自立を考える」  
シンポジウム開催!

去る3月2日(土)、石川小学校クリスタルホールにて、町と郡医師会主催の「平成30年度石川地区地域包括ケアシステムを考えるシンポジウム」が開催され、約300人の方が聴講しました。

今回は「いつまでも、元気に自分らしく生ききる」と題して、一般社団法人ふくしまをリハビリで元気にする会代表の岡本宏二先生の特別講演と、シンポジウムでは「その人らしさを支えるつながり」医療と介護と地域の力」をテーマに医師・ケアマネジャー・サロン世話人・生活支援コーディネーターの立場から意見が出されました。

地域のボランティアさんたちの取り組みでは、中田サロンの支え合いの活動が報告されました。

また、各地区で始まった自治協議会福祉部会の取り組みでは、中谷地区生活支援コーディネーターの吉田さんから、地域に住んでいる皆さんと「どのような地域で暮らしたいか」、支え合いづくりの話し合いが始まった様子が報告されました。

## 編集後記

石川町の支え合い・助け合いを伝える広報紙として第1号となります。

この取り組みは様々な社会資源を発掘して、みんなで共有しそれぞれの地域にあった「みんながいいきと暮らせる地域づくり」を進めていくこととしています。

昔はよくやられていた「向こう三軒両隣り」の助け合いや、お互いを気にかけてあえる地域づくりを目指して行きたいと思っています。



吉田さんの発表に多くの方が耳を傾けていました。

改めて地域の力の大切さを考えることができた有意義な時間となりました。